

スウェーデン王国
(Kingdom of Sweden)
人口 908万人
言語 スウェーデン語
首都 ストックホルム
1814年ナポレオン戦争以降非同盟・中立政策。欧州連合(EU)加盟、ユーロには参加していない。北欧の高福祉国家としてつねに世界の範となっている。



こんにちは世界の介護事情

1

～福祉先進国 スウェーデンの高齢者介護を訪ねて～

スウェーデン

現地取材:矢作ルンドベリ智恵子

2007年の今年、高齢者・障害者介護の問題は日本に限らず世界でも大きなテーマとなっています。今回はスウェーデンの首都ストックホルムにある小さな美しい公園に併設された認知症高齢者のための施設を訪ね、福祉先進国スウェーデンの高齢者介護についての事情を探ってみることにしました。

認知症と向き合う、セラピー公園とは。



ガーデンの管理をしている
クリスター・フェルマンさん



施設をご訪問され、124人の入居者一人ひとりと握手をされたスウェーデン王妃

スウェーデン初の
セラピー公園
「センス・オブ・ガーデン」
とは。

ここは首都ストックホルムにある最も古い公園の一つ、ヴァーサ公園。この一角に五官を刺激するセラピー療法目的に造られた小さな公園「センス・オブ・ガーデン」があります。この公園には、ストックホルム市営の「サバツベリ地域高齢者介護施設」が併設されており、戸外に出て自然と触れ合いながらリハビリやセラピーを行なうことを目的としたスウェーデン初のセラピー公園です。認知症の入居者たちはこの公園で過ごすことで五官に刺激を与え、記憶や判断力、感情を呼び覚まし、認知障害の進行防止に取り組んでいます。



五官を刺激する工夫のひとつ、川のせせらぎを再現



夏至祭の様子、
中国の体操Chigong社してる

士、作業療法士などが高齢者のケアにあたっています。入居費用はそれぞれの収入に見合った金額(年金のこと)を負担するというシステムになっています。

発想は、
ガーデンが持つ
セラピー効果。

この公園が出来たきっかけは、ひとりの介護施設に勤務していた作業療法士が、高齢の庭師と出会ったことから始まります。作



業療法士がベテランの庭師からガーデンに関するいろいろなアドバイスを、インスピレーションを受け、人の五官に刺激を与えるガーデンのセラピー効果(薬品を使わない治療のこと)の利用を思い立ちました。そうして認知症高齢者のセラピーを目的とした公園のプロ

セラピー効果を
引き出すさまざまな
アイデアと工夫。

この高齢者施設では各フロアの責任者が毎週いろんなアイデアを出しあっています。例を二つ挙げると公園内でのクイズゲーム。公園内にかくかくイズが隠されていて、これをそれぞれ探してクイズに答えていきます。楽しみながらの頭の運動さらに体の運動にもなります。

セラピー公園には、五官に刺激を与えるさまざまな工夫があります。咲き乱れる花々、木々の色。小鳥のさえずり、水のせせらぎの音。ハーブ類の芳香を漂わせる



温室(グリーンハウス)
オープニングの展示会

参考にしたい
スウェーデンの
高齢者施設の考え方

スウェーデンにおいても高齢化の問題は、財政的な問題もあり今後決して楽観的ではありません。しかし高齢者に対しては政府が様々な手厚い支援を行なっており、社会生活を全面的にバックアップするこれらの支援は北欧ならではのものと、いえます。

重要なことは、ここには高齢者施設のあり方に、ひとつの前向きな指針が示されているということです。充実した建物と設備の整った施設の建設は大事なことです。しかしその前に認知症高齢者とのように向き合うかという肝心のアイデアが、まずもって必要ではないかという問いかけです。セラピー公園と組合わせたスウェーデンの高齢者施設のあり方は、今後大いに参考になる事例といえます。